

ニューズレター 第7号
平成5年4月23日

日本精神保健看護学会

-The Japan Academy of Psychiatric and Mental Health Nursing-

事務局：
〒150 渋谷区広尾4-1-3
日本赤十字看護大学内
(理事長：稲岡文昭)
TEL：03-3409-0875
FAX：03-3409-0589

第3回 日本精神保健看護学会 総会・学術集会 テーマ：精神看護とチーム医療

1993年7月3(土)、4日(日)

場所：日本赤十字看護大学

今年で第3回を迎える日本精神保健看護学会は〈精神看護とチーム医療〉をテーマとして、看護職とともに働いている他職種の方々の講演やシンポジウムを企画しています。

現在、厚生省が思い描くチーム医療は、「臨床心理技術者」や「精神科ソーシャルワーカー」など、新しい職種を導入しようとしています。その基本は相変わらずの医師主導型のチームではないようです。確かに医療の現場は医師がひとりで全責任を担い、職務を遂行するのはほとんど不可能になってきています。患者のニーズの多様化やクオリティ・オブ・ライフの重視などを考えると、ケアの業務が新しい職種に分化され、多様なサービスを提供することができるのは歓迎すべきことかもしれません。しかし、こうした新しい職種の専門家たちとの連携を、看護職はどうとらえればよいのでしょうか。それぞれの専門性の面で葛藤は起こらないのか、4年生大学教育を資格取得の前提とする新しい職種との資格化、教育上のハンディキャップはどう乗り越えられるか。．．．などなど、懸念される問題は数多くあります。とはいえ、そうした職種の人々の悩みもまた、あるはずで。今回はそれぞれの立場での悩みや問題を忌憚なく話し合い、これからのチーム医療の展望を自分なりに追求していきたいと思えます。

本学会では、学会員の方々が受け身ではない生の学習の機会を多く得られるよう、ワークショップを増やしたり、演題発表にフロア・ディスカッションの時間を多くとるなどの工夫をこらしました。学会員のお一人お一人が、積極的にこの学会を活用して下さることを大いに期待しております。

(学会委員 武井)

第3回 日本精神保健看護学会 総会・学術集会プログラム
” 精神看護とチーム医療”

<第1日目：7月3日（土）>

10:30-13:00 総会

--- 学術集会 ---

13:35-13:40 オリエンテーション

13:40-15:10 講演「チーム医療における専門性」 鈴木純一（海上寮療養所院長・医師）

15:20-17:30 ワークショップ

- 1) 精神力動概念をもちいた事例検討 粕田孝行（長谷川病院）
事例をもとにして、患者の心の構造を理解していくことを目的とする。特に、現在の精神状態が患者の生育史、生活史とどうかかわっているのかを焦点にした、フリーディスカッション・スタイルで進行を試み、かつ精神力動概念への理解を紹介する。
- 2) 第5回精神（科）看護実習検討会 川口優子（北里大学）
今回は実習記録を取り上げます。昨年度、千葉大学看護学部精神看護学講座で用いた「セルフケア理論」をもとにした記録用紙を提示し、学生の実習の進みかたと記録の活用について実際に指導した教官に話題提供していただきます。参加希望で、臨床指導の立場にある方は、必ずそれぞれ現在使用している実習記録を3部お持ち下さい。持ち寄った記録用紙を話合いの素材にしたいと考えております。臨床の立場からの参加を歓迎いたします。
- 3) 看護におけるグループ・アプローチ 武井麻子（日本赤十字看護大学）
看護の仕事は集団を抜きには考えられない。このワークショップは、集団のなかで一体どのような現象が起こるか、実際にグループを体験するなかから理解しようという試みである。なお、定員は20名までとする。
- 4) カウンセリングの応用――カウンセリングマインドの普及 横田 碧（千葉大学）
第3回目の今年、初代カウンセラーとして看護職の背景をもって入職して20年、現在心理職を含めて4名のカウンセラーのチーフとして、カウンセリングマインドの職場内への浸透を図っている【常陽銀行の近藤信子さん】の報告を聴く。そして、保健医療の場への普及などについて話合いたい。
- 5) リエゾン精神看護・学習会 南裕子（兵庫県立看護大学）
一般病棟に入院中の患者で、精神心理的問題をもつために、看護婦が対応困難であると感じる患者の事例を検討し、リエゾン精神看護に必要な知識、技術を明らかにし、その方法を探る。
- 6) 地域リハビリテーション看護 田中美恵子（聖路加看護大学大学院）
東京武蔵野病院精神科リハビリテーション・サービス(MPRS)の試みの中から、特に看護者による服薬指導等、患者教育（サイコ・エジュケーション）に焦点を当て、その一部をロールプレイを交えて具体的に紹介して頂き、精神科リハビリテーションにおける看護の役割と可能性を参加者とディスカッションしながら探究していきたい。
- 7) 「再構成」・プロセスレコードの有効な使い方<講義> 池田明子（北里大学）
「再構成」・プロセスレコードのもつ意味を再考しながら、看護の領域での活用のされ方について問題提起し、有効に活用するために必要な基礎知識・技術について整理してみたい。

18:00-19:30 懇親会

<第2日目：7月4日（日）>

9:30-12:00 一般演題発表（1題発表15分、討議15分）

第1群：患者へのかかわりに関するもの

[座長] 岡谷恵子（聖路加看護大学大学院）

- 1) 排泄行為に障害をもたらした痴呆性老人の失禁や排泄問題行動の分析 林優子（聖路加看護大学大学院）他
- 2) ALSで呼吸器装着により強迫症状を呈した患者への対応 塩塚優子（北里大学東病院）他
- 3) 家族機能・ケース自身の機能低下の著しい境界型人格障害のケア計画に関する一考察 小川真貴子（長谷川病院）他
- 4) 単身患者の地域における自立への援助 徳本栄子（北大附属病院）他

第2群：患者ケアの実態と評価に関するもの

[座長] 稲岡文昭（日本赤十字看護大学）

- 1) 精神科病棟における患者の痛みに関する諸問題 森田秀子（神奈川県こどもセンター）他
- 2) 精神科入院後の患者の適応過程について 富川孝子（自治医大看護短大）他
- 3) 肥満傾向のある精神科入院患者の間食摂取行動の実態とその特徴 新田敏恵（駒ヶ根病院）他
- 4) 痴呆入院患者の退院先決定へ影響をおよぼす要因 新開淑子（北里大学大学院）

第3群：グループ活動および看護チームに関するもの [座長] 横田 碧（千葉大学）

- 1) 事例検討会における集団力動 小宮敬子（東京都精神研）他
- 2) 小グループ活動の見直し 前島雪子（駒ヶ根病院）他
- 3) 音楽療法での看護者の関わりを考える 井沢晴衣（北里大学東病院）他

第4群：学生および看護者の教育に関するもの

[座長] 川野雅資（東京女子医大看護短大）

- 1) 精神看護学実習における学生の対処行動 吉川初江（北里大学）
- 2) 臨床看護実習における学生の心理状態 寶田穂（奈良文化女子短大）他
- 3) 精神看護学実習における個別学習目標について 熊澤千恵（愛知県立看護短大）
- 4) 精神科看護者が重要視している看護者・患者関係の持ち方 松崎澄子（駒ヶ根病院）他

13:30-16:00 シンポジウム

<精神医療におけるチームアプローチ—他職種と看護の接点を探る>

- | | | |
|--------|----------------|---------------------|
| シンポジスト | 作業療法士の立場から | 富岡詔子（信州大学医療技術短期大学部） |
| | 臨床心理士の立場から | 高林健示（都立梅が丘病院） |
| | 保健婦の立場から | 野坂節子（滋賀県精神保健総合センター） |
| | ソーシャルワーカーの立場から | 深沢里子（聖路加国際病院社会事業部） |
| 司会 | | 粕田孝行（長谷川病院看護部） |

